

初めての運動会！ 花組：中原	力を合わせて！ 風組：水口	応援がパワーに 星組のきずな 星組：井上
夏休みが明けて「なにしてるの？」「一緒に遊ぼう！」と、友達に話かける姿が急に増えたような気がします。友達や周りに目が向き始める時期だから、運動会がこの時期にあるのでしょうか。こんな姿を見ると、改めて行事の意味を考えさせられます。運動会も日々の生活とのつながりを大切にしているので、花組では「運動会の練習」とは言わないようにしています。9月の初め、初めて体操服を着て身体測定をした花組さん。「体操服は、動きやすい服だから、かっこよく走れそうだね」と知らせると「試してみる」と汽車の周りをぐるぐる走って確かめる素直な花組さん。「運動会をするところを見に行ってみよう！」と、秋休みで誰もいない小学校の運動場に行ったときには、静かな校舎に囲まれて反響する自分たちの声やたくさんメダカがいるピオトープなど運動場につくまでにも魅力的なものがたくさん。そうこうしているうちに、目の前に大きな運動場が広がると、自然と体が動き出し一斉に走り出していきました。その後も、友達と手をつないで走ったり、虫を捕まえたり、花を摘んだり、思い思いに小学校の運動場を楽しみ、まるで遠足のようでした。最近では、気温も少し涼しくなり、「先生、〇〇のところまで、よいいどんしよう！」と言って走ったり、鬼ごっこのような遊びをしたりして楽しんでいます。花組の今は、勝ち負けや順位などは気にせず、走ることを純粋に楽しめる貴重な時期なのかもしれませんね。運動会当日も走ることを楽しめるといいなと願っています。 1 学期から続いている花組さんが好きな遊びの一つ   に、スポンジボールを投げたり紙飛行機を飛ばしたりする遊びがあります。“100 かいだてのいえ”の絵本をモチーフに的をつくと、高さをねらって投げるようになりました。その後も、いろいろな“投げる”を楽しめるように、ボールの種類や的を変えたり、的にボールがくっついたりの的が倒れたり、実習生と一緒に私たちも試行錯誤の日々を楽しんでいます。   	夏休みにたくさん元気を蓄えて帰ってきた風組さん。9月1週目は、普段通りの友達と遊ぶ姿がありました。しかし、2週目に入ってからはおばけやしきをきっかけとして、それぞれが自分なりに役割をもちながら協力して遊ぶ姿が見られ始めました。運動会では、友達と力を合わせて競技を行うものが多くあります。そのため、9月2週目に見られた協力する姿がとても印象深く、また少し大きくなった風組さんだと思うとともに運動会に向けての練習が楽しみになりました。運動会の練習は、「よし。運動会の練習をするぞ」というようなものではなく子どもの中では「いつもの遊びとは少し異なった楽しい遊び」という感覚で楽しく練習に取り組んできました。 遊戯室で練習したバルーンでは、バルーンを見るだけで楽しくなって「もっと広がるよ」や「バルーン、もっとやりたい」、「先生が言うまで、勝手に動かないんだよね」、「優しくしないと、破れちゃうんだよね」など自分が思ったことや今まで伝えられてきたことを口々に話す姿が見られました。バルーンの中に空気を入れてから中に入って座するという技をすると、座らずに走り回ってバルーンの中を楽しむ子どもやきちんと座れている子どもに分かれていました。しかし、練習を重ねるにつれてほとんどの子どもが座れるようになりました。また、イツアスモールワールドの曲と先生の指示に合わせて拍をとりながら最初から最後まで踊れるようになりました。本番で、おうちの人と一緒に踊ることを伝えると嬉しそうにしながら「じゃあ、お母さんに教えてあげよ」や「お父さんと一緒にやりたいな」など運動会で親子で一緒にするバルーンをととても楽しみにしている姿がありました。 遊戯室で練習してきたあめ玉運びでは、手作り担架を使って2人1組で力を合わせて真ん中に置いてある3つのボールの所まで行き、担架の上のせてゴールの袋付近まで持って行って担架を置いて、手でボールを入れるという競技をしました。元々ボールが好きな風組さんだったので、ルールを説明する前からわくわくとした様子で見えていました。実際にやってみると、2人で力を合わせて担架を運ぶということが子どもたちにとっては楽しかったようで、全員がゴールし終えた後に「もう一回！」という声が次々に聞こえてきました。最初は、男女に分かれてペアをつくっていましたが、本番は男女のペアで行うということで「今日は、この前と違って男	星組の競技は、かけっこ、サーキット、親子競技、そして最後にリレーがあります。ほとんどの星組さんにとって、リレーという走り方は初めてです。最初は大庭でバトン渡しゲームから始めました。「バトンにはみんなのパワーと『頼んだよ!』『次、お願いね!』』という思いが詰まっているよ。だから落とさずに最後の人まで渡すんだよ」と話すと、子どもたちは5人一列に並んで「はいどうぞ」と落とさずに渡すことを楽しみました。少しずつ距離を伸ばし、最後は大庭に引いたトラックの5地点に一人ずつ立って走りながら渡すことに挑戦しました。小学校の秋休みには、「小学校の先生が運動場を使ってもいいよって。広いからたくさん走れるよ。行ってみよう」と声をかけてみんなで行きました。階段の上から広い運動場に大きなトラックが見えます。「うわー広い!」と子どもたち。「走れるコースがあるよ。世界陸上みたい!」と保育者が言うと「テレビで見た!」「走りたい!」と目を輝かせました。「じゃあ、今からみんなは陸上選手です。プロの走りを見せてください」と保育者が言うと「えー!?!」「よっしゃ!」と言いながら運動場へ。年長さんはかけっこも、リレーもトラックを回ります。「さあ、プロの陸上選手はどちらに向かって走るでしょう?」などクイズを出しながら走る向きやカーブを曲がる時に「線の外を走ること」「ゴールの線まで走り抜けること」「帽子が脱げてても靴が脱げてても最後まで走ること」など話していきました。「よいい。スタート!」の掛け声で子どもたちは順々に気持ちよさそうに駆け抜けていきます。最後は運動場の端から端まで走ってみよう!とその日は小学校の運動場の広さを満喫して帰りました。それから何回かかけっこや、リレーをしに小学校へ行きました。その中で勝ったり、負けたりを味わって「遅いから行きたくない」「どうしてぼくは…」という声も聞こえてきます。リレーは特に自分の力だけでは勝てません。いつも1位でゴールをきっていたA君は、リレーでバトンを渡されたときにはどんなに頑張っても最後になってしまうのが確実でした。「もう!」という悔しい表情でバトンをもらって涙目ながら最後まで走り切り、ゴール後は声をあげて泣いていました。B君はチームで走るというのは言葉では分かっているけれど、自分の時に抜かされると“もうだめだ”とトボトボ走りになり次の人にバトンを渡すと、すみっこで体育座りをしてうつむいてしまいます。「今日は2人もお休みで本当のパワーじゃなかったから、本番はまだ分からないよ」 



裏面に続きます



裏面に続きます



裏面に続きます

運動会でも、親子競技に“投げる”場面が登場します。これまで投げ続けてきたスキルがいかされるのでしょうか？そして、親子競技では、飛行機や新幹線などの乗り物も使います。保育者が乗り物になりそうな段ボールを選んでい



「何してるの？」
「手伝おうか？」と子どもたちがやって来て、一緒に乗り物をつくることになりました。「飛行機にしたいんだけどね…」と保育者が話すと「羽はこの辺よ」「飛行機乗ったことある！」と、秋休み



明けのみなさんが教えてくれました。完成するとさっそく乗り心地を試してみるところもかわいい花組さんです。そんな楽しそうな様子をキャッチした子どもたちが次々に集まって、飛行機と新幹線は直ぐに満員になりました。他にも、最近

はよく風組さん星組さんの遊びに招待されます。お誘いの声がかかると今までしていた遊びもそのままにして、喜んで飛んでいく子ども



たち。中でもショーのお誘いが嬉しいようで、一緒にステージに上がって踊ったり、花組に帰って来てからも先ほど見たショーと同じようにしてみたり、私が子どもたちに踊

り方を教えてもらったりしています。

運動会当日は「ダンスはちょっと…」「お客さんがたくさんいる…」という気持ちになることもあるかもしれませんが、そんな姿も花組さんでしか見られない姿なのかもしれません。日々の生活の中にある楽しい姿が集まった思い出に残る運動会になるといいなと願っています。



の子1人と女の子1人のペアになってもらおうと思っているよ」と伝えると「私、Mくんとやりたいの」と言ったり「Ｙちゃん、やろう」と誘いに行ったりする姿がありました。この場面で、ほとんどの女の子は男の子から誘いが来ることを待っていて端から見ていて微笑ましくもあり、プリンセス気分の女の子たちが多い風組さんだと思いました。

遊戯室で十分に練習して、子どもたちも競技の内容になれてきた頃、小学校の運動場に行って本番と同じようにかけっこやあめ玉運びをしました。風組の中には、小学校に初めて行く子どももいたので「小学校って、広いね」や「ここで、（運動会を）やるの？」など嬉しそうにしながら話す様子が見られました。また、かけっこを男の子、女の子それぞれでやってみると「俺が1番になる」や「私、速いから負けないよ」など友達との競争を楽しむ様子が見られました。その光景を見て、本番では、男女混合で行うことからもっと対抗意識を燃やしてかけっこをするのだろうなと思いました。あめ玉運びでは、遊戯室と違って走る距離があることから走るペースを考えたり協力したりする姿が多く見られました。また、遊戯室で行ったときは子どもたちは競争と思ってあめ玉運びをしていましたが、運動場で本番と同じ形でやってみたときに、A君が「これは、競争じゃなくてみんなで力を合わせてやるんだよね」と気が付いたことからみんなの意識の中により明確に協力してやるんだという思いが芽生えました。星組さんにダンスのショーに招待されて、運動会で踊る「ジャンボリーミッキー」と「それもいいね」を覚えてもらいました。最初は、一緒に楽しく踊る子どもや恥ずかしそうにしながら見ている子どもがいました。しかし、2回目に招待されると1回目に恥ずかしそうに見ているだけだった子どもも自分のできるところだけ踊る姿が見られました。このように、運動会に向けて子ども一人一人が練習に向き合い、がんばってきた風組です。友達と競い合う姿や協力する姿、がんばる姿をこの運動会で見ていただけたらと思っています。また、子どもたちにとっても運動会が楽しかったねと思えるようなものになればいいなと願っています。今後とも、子どもの成長と一緒に見守り支えていただけたらと思いますので、これからもよろしくお願いします。



「諦めずに A 君がバトンを次の人に渡したから最後の B 君がゴールできたんだよ」「B 君が抜かされても次の C ちゃんが助けてくれるから大丈夫」と励ますと少しパッと表情が明るくなりますが、思い出す度にうつむいていました。お弁当の時間、再び思い出して「もうだめだ」と涙が出ていたので「今日は仕方がなかったんだよ。2人も休んで本当のパワーがなかったから…」と声をかけると「そのことじゃなくて。最後まで応援してほしかった。最後まで応援してくれたら頑張れると思う」と B 君。「みんな応援してくれてたと思ったけどな。中野先生も園長先生も B 君の横と一緒にがんばって最後まで走って応援してくれてたでしょ？」と言うと「うん。そうだけど、僕じゃなくて最後の人まで応援してくれたら最後の人も頑張れたと思う。そうだ！それをみんなに言おう」と B 君。それから気持ちを切り替えてお弁当を食べ始めました。クラスみんなは応援していたのですが、B 君にとっては“応援の力がもっとあったほうがいい”“最後の人も応援のパワーがもらえたらもっと速く走れて勝てるのでは”と思ったのかもしれません。B 君は最初の頃は「僕はなんて遅いんだ」と自分の走りを気にして落ち込んでいましたが、この日はチームの友達にも応援が欲しいという気持ちになっています。また、初めて B 君のチームが勝った日、友達が「D 君のおかげで勝てたからありがとうって言ってきた」という言葉を聞いて「僕は E 君に言うてくる！」「先生、ありがとうって言ってきたよ」と B 君。友達にありがとうを言ってもらえて D 君や E 君も誇らしげでした。勝ったり負けたりして涙が出ることもあります。友達が走る姿を応援したり、声を掛け合ったり何度も走る中で徐々にチームのみんなで作っているという気持ち生まれていくのだと感じられました。サーキットでは競争ではなく自分たちの得意な技、見てほしい技を選んで紹介します。1 学期から親しんできた跳び箱や鉄棒を 2 学期になっていろいろな高さで楽しめるようにすると、チャレンジしたくなって「先生見て！」という声が増え始めました。最近では「F ちゃんもできるようになったよ」と友達のことを嬉しそうに伝えたり「惜しい！あとちょっと」と応援する声も聞かれたりするようになりました。諦めずに何度もやってできた嬉しさや、できない悔しさなど自分も頑張った経験があるからこそ、友達の挑戦や成長を自分のことのように喜べるのだと思います。運動会当日、どんなドラマが待ち受けているか分かりませんが、どうか皆さんの応援を子どもたちに届けていただけたらと思います。その一つ一つの声が、子どもたちの力になるはず。よろしくお願いします。

